

14 当施設敷地内に生息・出没する危険な生物

(ヘビ、ハチ、クマ、ムカデ、マダニ)

〈ヘビ〉 ※毒により死に至ることもあるので、十分に注意してください。

毒蛇であるマムシ・ヤマカガシがいます。知らずに踏みつけたり、目の前を通ったりして咬(か)まれることがあります。草むらや茂みのそばを通るときは十分注意してください。

また、コースを外れたディスクを取りに行くときは、草むらや石の下等に手をつっこむ前に、ヘビがいないか気を付けて見てください。



◆マムシ

特徴： 茶褐色のずんぐりした体と頭部が三角形で、胴に大きな銭型模様とよばれる「丸描いてチョン」の独特の迷彩模様です。

茶褐色の丸い模様の中央に暗色の斑点があります。

小型(45~80cm)のヘビですが、毒性は強力でハブの3倍あるといわれています。



◆ヤマカガシ

特徴： 頭は細長く、体色は、暗緑色をベースに赤と黒が交互に入った色鮮やかな模様が入っています。体色には個体差や地域差が大きく、標準と大きく異なる体色の個体もいます。

以前は、無毒と言われていましたが、マムシの3倍の毒性があることがわかりました。おとなしいヘビと言われていますが、手で触ったり踏んだりしないようにしてください。咬まれると大変危険です。

【対策】

- ◆ 歩くときや草むらに近づくときなどは、うっかりヘビを踏んでしまうことがないように、足もとをよく確かめること。
- ◆ 屋外での単独行動や突発的に草むらに入るようなことは避けること。
- ◆ ヘビを見つけても、刺激するようなことをしたり、素手で捕まえようとしたりすることは絶対にしないこと。

〈ハチ〉 ※ アナフィラキシーショックにより死に至ることもあるので、十分に注意してください。

スズメバチ・アシナガバチ・ミツバチなどの巣のそばを通ると、危険です。近寄らないでください。

【対策】

- ◆ 黒い帽子や衣服を着るのは、できるだけ避けること。
 - ◆ 樹液の出ている木のそばを通るときは、ハチを刺激しないよう十分に注意して通過すること。
 - ◆ ハチを見つけたら、刺激しないように、静かに後退すること。
- ※ 巣を見つけたら速やかに事務室に連絡してください。

【ハチに刺されたときの対処法】

- 巣から遠く、安全な場所まで移動すること。
- 事務所に緊急連絡すること。
- 刺された部分を保冷剤などで冷やすこと。
- 救急車の出動要請(119番)を検討すること。



〈クマ〉

野外活動センター・こども村を含む、安佐町内の山々はクマ(数は多くありませんが)の行動圏になっています。このため、当施設内や牛頭山での活動中に、クマを目撃する可能性も皆無ではありません。そこで、利用者の皆さんは、次のことを知っておいてください。

- (1) 広島に山にいるクマは、「ツキノワグマ」で北海道にいる「ヒグマ」とはちがいます。
ツキノワグマは、刺激しない限り一方的に攻撃してくることはありません。
- (2) 山に入るとき、しっかり人の気配をさせて入れれば、クマの方から人間を避けてくれます。人がいることをアピールする方法として、単独ではなくグループでまとまって声を出したり、歌を歌ったり、おしゃべりをしたりして歩くことが効果的です。鈴やラジオを鳴らすことも有効です。
必要であれば、鈴をお貸します。事務室へお申し出ください。
- (3) 万一、クマと遭遇した場合
 - ① 遠くにクマを見つけたら、静かに急いで立ち去ること。
 - ② 近くで出会った場合は、静かにじっとしていること。まずクマの方から立ち去ります。急に動いてクマを刺激すると、追いかけて襲ってくる場合があります。
 - ③ 小さな子グマを見かけたら、そばに母グマがいる可能性が高いため、近寄ると危険です。
 - ④ もしも、クマの姿や足跡、爪で木をひっかいたような跡を見かけた場合は、**必ず事務室に報告してください。**

- (4) ごみや弁当がらを山に捨てないでください。クマが人の食物の味を覚えると、ごみあさりをして人と接触する危険が増大します。クマは山でひっそりと暮らす生き物です。人の暮らしを当てにする「困ったクマ」にさせないために、ごみの始末もきちんとしてください。

- (5) 「クマは森なり」といわれます。絶滅危惧種に指定されているクマの状況は、いまの森の状況を考える上で、大切な教材でもあります。機会があれば自然教育の教材としてクマを取り上げてください。



ツキノワグマ

〈ムカデ〉

梅雨時に出てくる不快害虫の代表がムカデです。足が21対もあり強靱(きょうじん)な毒牙(どくが)をもっています。咬(か)まれると焼けるように痛く、患部が腫れあがります。ムカデの毒はスズメバチの毒に近く、幼児や子どもが咬まれると非常に危険です。

当施設では、テントや建物の周囲へ必要に応じてムカデ侵入防止の薬剤を散布していますが、自然に囲まれた施設なので、侵入を完全に防ぐことは不可能です。テント利用の際は、テント内を十分確認してください。殺虫剤を使いたくなりますが、ムカデは多くの殺虫剤に対して感受性が低く、なかなか効きません。瞬間冷凍スプレーが効果的です。また、お風呂用洗剤をスプレーすると効果があります。

【ムカデに咬(か)まれたときの応急処置】

- ① 真っ先に熱め(43~45℃)のお湯で皮膚表面に付着した毒を(10分~20分程度)洗い流すこと。(40℃以下だと、毒が活性化し余計にひどくなる場合があります。)
- ② 熱いお湯で洗い流すとともに、弱酸性以外の石けん類で洗い流すこと。(痛みや腫れを抑制する効果が期待できます。)
- ③ 抗ヒスタミン含有ステロイド軟膏が、痛み腫れに効果的。
- ④ 氷で患部を冷やしたまま速やかに病院へ行く。

【ムカデに咬(か)まれたときにやってはいけない事】

- 口で毒を吸い出すこと
- 指などで絞り出すこと



〈マダニ〉

マダニは、食品などに発生するコナダニや衣類や寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは種類が異なります。

マダニ類は、固い外皮に覆われた比較的大型のダニで、主に森林や草地などの屋外に生息しており、市街地でも見られます。

マダニが媒介する感染症（日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群、ダニ媒介脳炎など）もあり、ごくまれに重症化することがあるので注意が必要です。



【マダニの性質】

- ① 植生上で吸血源の動物が通りかかるのを待ち伏せしている。
- ② 活動時期は、4月中旬～11月下旬
- ③ マダニは吸血が完了すると落ちる。
- ④ 動物の通り道はマダニに吸着される危険性が高い。

【マダニの吸着状況】

- ① 皮膚に口器を差し込み、セメントのような物質によりしっかり固着する。
- ② 吸着されても痛くもかゆくもないので、なかなか気づかない。
- ③ 農作業、レジャーや庭仕事など野外で活動する際には、次の点に注意が必要です。
 - ・ 長袖、長ズボンなどを着用して肌の露出を避け、ズボンやシャツの裾などを入れ込んでマダニの侵入を防ぐ。
 - ・ 野外活動後は、体や服をはたき、マダニに咬（か）まれていないか確認する。マダニは、身体に取り付いてすぐに咬むのではなく、体の柔らかい部位を探して咬む習慣があります。
 - ・ 脱いだ衣服は放置せず、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口をしぼっておく。
 - ・ 吸血中のマダニを見つけた場合は、自分で取ろうとせず**医療機関で処置**してもらう。

【事前の対策】

- ◆ 肌の露出を少なくすること。
 - 帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等。
- ◆ 長そで・長ズボン・登山用スパッツ等を着用すること。
 - シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる。
- ◆ 足を完全に覆う靴を履くこと。
 - 肌の露出の多いサンダル等は避ける。
- ◆ 明るい色の服を着る(マダニを目視で確認しやすくするため)こと。
 - ※ 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにする。
 - ※ 屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認する。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)等に注意。

【マダニに咬まれたときの対処法】

- 指やピンセットで無理に引っばって皮膚から取り除こうとせず、**医療機関(皮膚科等)で処置(マダニの除去、洗浄等)**をしてもらうこと。
- マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状がある場合は、**医療機関で診察**を受けること。